

公文類聚卷之編

三十四年

卷五

儀典門	族爵門	雜載	分限	任免	三止	官職門	三止
-----	-----	----	----	----	----	-----	----

國民公文書館

分類

部

配架番号

2 A

12

2236

關甲第三八號 起 昭和十四年二月二十日 閣議 昭和十四年二月二十日 裁可昭和 年 月 日 行 昭和十四年二月二十日

內閣總理大臣 田

內閣書記官長 田

外務大臣 田 陸軍大臣 尾 文部大臣 尾 遞信大臣 田 厚生大臣 尾

內務大臣 田 海軍大臣 尾 農林大臣 尾 鐵道大臣 尾 警務大臣 尾

大藏大臣 田 司法大臣 田 商工大臣 尾 拓務大臣 尾

別紙內閣訓示案  
右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十四年 二月二十日

内閣書記官長

各省次官宛(各通)

今般別紙ノ通訓示相成候條其趣旨  
徹底方可然御配意相成度依命  
此段及通牒候

内閣訓示

各官廳

今回 大命ヲ奉ジテ内閣首班ノ重責ニ任ジ、夙夜惕厲、報効ノ誠ヲ盡サ  
ントスルニ當リ、深ク官吏ノ協戮ニ信賴ス。時ニ支那事變勃發以來、  
一意専心、軍後ノ事務ニ執掌シ、其ノ功勞<sup>ニシテ</sup>顯著ナルモノアルハ、感謝  
ニ堪ヘザル所ナリ。然ルニ時局ハ益々重大ニシテ、之ガ處理ハ朝野共  
ニ萬全ヲ期セザルベカラズ。因テ茲ニ官吏ノ遵守スベキ要項ヲ示シ、  
切ニ一層ノ努力ヲ望ム。

一、皇道ニ率由シ、公義ヲ尊重シ、各々其ノ職分ヲ守リ、以テ國家ノ進  
運ニ貢獻スルハ、日本國民ノ本分ニシテ、官吏タル者ノ最モ意ヲ用  
ユベキ所ナリトス。蓋シ萬民輔翼ハ我國體ノ特質ニシテ、國家ノ要  
務ニ參預スルハ、官吏ノ階層ニ限ルニ非ズ。是ヲ以テ官吏ガ高々自

ト班ニ就ニ職責ヲ負担シ、吾國ニ奉仕スル以上、常ニ其ノ品位ヲ保ナ、

ラ標置シ、獨リ自ラ大ナリトスルハ、取ラザル所ナリ。雖モ、既ニ職責ヲ負擔シテ、國家ニ奉仕スル以上、常ニ其ノ品位ヲ保テ、言行ヲ慎シ、以テ國民ノ模範タルベキハ、亦固ヨリ論ヲ待タズ。宜シク智見ヲ鍊磨シ、徳性ヲ存養シ、紀律節制ヲ重ンジ、殊ニ公義キ備ヒ皇道ヲ尙ビ、以テ日新ノ意氣ヲ養ヒ、阻勉不息、政機ヲシテ活潑ナラシムベシ。

一、官吏ノ司ル所ハ各々異ルト雖モ、奉仕ノ中心ハ則チ一ナリ。故ニ一切ノ私心ヲ去リ、上長下僚、相倚リ相助ケ、勵精恪勤、以テ其ノ全能ヲ奮ヒ、之ヲ中心ニ向テ傾注スルヲ要ス。若シ其ノ所見ヲ異ニスル時ハ、各自ノ職責ニ顧ミ、之ヲ開陳スルヲ至當トスルモ、相互固執ノ結果、百般ノ施策ニ矛盾扞格ヲ生ズルガ如キハ、嚴ニ戒慎セザルベカラズ。今ヤ國家ノ總力ヲ擧ゲテ、聖戰ノ目的達成ニ邁進スル

ノ秋、官界内部ニ於テ、萬一相剋摩擦ノ弊アラシカ、縦ヒ愛國ノ至情ニ出テ、奉公ノ精誠ニ發シタリトスルモ、勢ノ趨ク所、必ズヤ職務ノ澁滯ヲ來シ、延キテ國家ノ大事ヲ阻格スルニ至ラム。宜シク義務以テ事ヲ制シ、和衷協同ノ氣風ヲ作興シ、以テ國民ノ信賴ヲ高メ、進ンデ難局ノ打開ニ銳意スベシ。

一、近時軍後ノ行政頓ニ繁キヲ加フ。其ノ直接間接作戰行動ニ寄與スルト共ニ、國民生活ニ影響スル所極メテ大ナルモノアリ。或ハ出征將士ノ遺族家族ノ援護ニ關シ處理スベキモノ多ク、或ハ經濟統制ノ運営ニ俟チテ、軍後ノ設備ヲ強化スベキモノ亦尠ナカラズ。孰レモ其ノ職司ニ應ジ、官吏ノ迅速適切ナル措置ニ期待セザルベカラズ。宜シク事ノ緩急ヲ量リ、繁縟ニ陥ラズ、機宜ヲ失ハズ、衆庶ニ對シテハ懇切鄭寧、處理ニ當リテハ簡捷果決、以テ奉公ノ實ヲ擧ゲムコト

ヲ勉ムベシ。

一、出征將士ハ幾多ノ艱苦ニ堪ヘ、史上未曾有ノ偉勳ヲ立テ、赫々タル  
戰果ヲ收メ、爲ニ命ヲ砲火ニ隕シ、屍ヲ原野ニ横ヘシ者亦鮮シトセ  
ズ。而モ皆踊躍シテ事ニ從ヒ、忠勇義烈、一死報國ノ精神ヲ發揮セ  
ザルハナシ。内ニ於テハ則チ經濟統制ノ必要ニ應ジ、國民皆各種ノ  
缺乏ヲ忍ビ、日夜其ノ職務ニ勉勵シ、軍後ノ支持ニ滿幅ノ熱誠ヲ捧  
ゲツツアリ。惟フニ此ノ戰果ヲ有効ナラシメ、東亞永遠ノ安定ヲ圖  
ラント欲セバ、綜合國力ヲ新秩序ノ建設ニ集中セザルベカラズ。隨  
ツテ今後更ニ統制ヲ鞏固ニシ、國家總動員法中所奉ノ條項ハ、遂ニ  
之ヲ發動スルニ至ルベシ。是レ實ニ已トテ得ザルニ出ヅ。冀クハ軍  
變ノ來由ト國家ノ目的トニ鑑ミ、相戒メテ操守ヲ嚴ニシ、長期ノ艱

苦キ堪ヘ、缺乏ヲ忍ビ、官更タルノ威信ト、大業輔成ノ矜持トヲ  
保シ、以テ萬過誤ナキヲ期スベシ。

昭和十四年二月二十四日

内閣總理大臣 男爵 平 沼 騷 一郎

各官廳  
時局  
内閣訓示  
示

○昨二十四日内閣總理大臣ヨリ各官廳ニ對シ左ノ内閣訓示ヲ發シタリ  
内閣訓示號外

各官廳

今回……………



內閣書記官長

通牒案

昭和十四年二月二十四日

內閣書記官長

法制局長官

實業局長官

企畫院總長

對滿事務局局長

內閣情報部長

警匪院總務長官

宛

會計検査院長

行政裁判所長官

貴族院書記官長

衆議院書記官長

今般別紙、通訓示相成候條其趣旨徹底方可

然御配意相規度依命此段及通牒候

通牒 一 二

昭和十四年二月十四日

内閣書記官長

内閣官房記録課長

會計課長

内閣恩給司長

内閣印刷司長

内閣東北司長

内閣總務司長

今般別紙、通訓示相成候條其趣旨徹底方

可然御配意相成度

通牒 一 三

昭和十四年三月二十四日

内閣書記官長

今般 官内次官之記

内閣總理大臣より別紙、通訓示相成候條

爲参考及送附候